

# 「健生保育園」 2026 年度 運営方針

年間目標:「子どもの主体性を大切にし、遊びを通して成長を支える保育」

保育所保育指針に基づき、「子どもの成長を支える保育を実践する」ことができるように「遊び」を通して、健生保育園が育てたい3つの力(「1 主体性」、「2 集団生活力」、「3 思いやりの心」)、を育める保育環境をチーム保育を中心に実践する。

想定される園児の姿:「子どもの主体性を大切にし、遊びを通して成長を支える保育」で育つ園児の姿  
(各年齢期ごとの姿)

## 0 歳児の姿

- 安全で安心できる環境の中で安定して過ごす。
- 寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩き、一人立ちと段階を踏みながら歩行を獲得していく。
- 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える
- 発声、喃語、発語を促し、保育士の話しかけを喜んだり、自分から片言で話し始める。
- 探索行動を十分経験して身のまわりのさまざまな物に興味や関心をもつ。

## 1 歳児の姿

- 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ
- 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる
- 身近な環境に親しみ、様々な物に興味や関心を持つ。
- 言葉遊びや簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。
- 様々な感覚を通して豊かな経験をする。

## 2 歳児の姿

- 見立て遊びや簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
- クレヨンなどで線や形を描くことを楽しむ。
- 自分の気持ちやしてほしいことを言葉で伝えようとする。
- 身の回りのことを自分でやろうとする姿が増える。
- 友達の存在を意識し、並行遊びを楽しむ。
- 身体を十分に動かし、様々な動きを経験する。

## 3 歳児の姿

- 自分の食べられる食材や量を把握し始める。
- 友達に関心を持ち、一緒に遊ぼうとする姿が見られる。
- 走る、跳ぶ、投げるなどの基本的な動きを楽しむ。
- 集団生活の中で簡単なルールや順番を理解する

- 自己主張が強くなり、友達とのトラブルも経験しながら関わりを学んでいく。
- 身近な物の名前や数量、大きさなどに興味を持つ。

#### 4 歳児の姿

- 一日の流れを理解し、身の回りのことを行う。
- 集団生活になじめるようになり、周囲の人や物に関心を持ち、社会性のある行動ができるようになる。(友達に声をかけて遊びに誘う、順番を理解して待てる、公共の場のルール・マナーを守ろうとする。)
- 語彙が増え、理由を持って自分の気持ちを伝えることができる。
- 身体能力が向上し、様々な遊びを楽しむ。
- 理解力が育つ一方で、感情のコントロールが難しい場面も見られる。

#### 5 歳児の姿

- 身体のバランス感覚が育ち、様々な動きを組み合わせた動きができるようになる。
- 自分の意見や思いを言葉で表現する。
- 友達の気持ちを理解し、思いを調整しながら関わることができ、社会性を考えた行動ができるようになる。
- 時間、数、文字などに興味を持つ。
- 就学に向け、期待をもって園生活を楽しむ。

健生保育園が育てたい3つの力(「**1 主体性**」、「**2 集団生活力**」、「**3 思いやりの心**」)が育まれた姿

- **1 主体性**: 遊びや活動に意欲的に取り組み、自分の考えや気持ちを表現できる。
- **2 集団生活力**: 友達と協力して遊び、ルールを守りながら楽しく過ごせる。
- **3 思いやりの心**: 友達の気持ちに気づき、友達を助けたり、励ましたりすることができる。物を大切に使う気持ちを持つ。

「子どもの主体性を大切にし、遊びを通して成長を支える保育」を通しての総体的な姿

- 遊びを通し、子どもが自ら考え行動できる力を育む。
- チーム保育で、互いを尊重し協力する力を養う。
- 遊びの中で、相手の気持ちを理解し共感する心を育む。

#### ① 具体的行動目標

1. **1 主体性**
  - 子どもの興味、関心を尊重し実現するための過程を一緒に考える。
  - 自分で選ぶ経験を積み重ねていけるよう、環境を整えたり、関わったりする。

- 子どもが自分でやりたいと思える意識を育み、何度も経験させることで身の回りのことに当事者意識を持たせ主体性を育む。

## 2. **2 集団行動力**

- 友達と遊びの場やルールを共有することを通して、人とかかわる楽しさや面白さを知る
- 友だちや保育者、様々な人と関わり合い、親しみを持つ
- 子どもがお互いに認め合い、意欲的に行動する中でチャレンジする気持ちや、協力する楽しさを知る。

## 3. **3 思いやりの心**

- 相手の気持ちを想像し、寄り添い共感する気持ちを持つことができる。
- 自分の意見だけでなく、相手の意見や考えも尊重できる。
- 感謝の気持ちを感じる・知る。
- 言葉使いが丁寧になる。

## ② チーム保育行動目標

### 1. 園児の **1 主体性**を育む

- 子どもが自分で選んで始めたことは最後まで『見守る』
- 子どもが選んだものを、保育士が変えない
- 子どもの興味や好奇心を育てる問いかけを増やす。
- 保育者と子どもが信頼関係を築く
- 子どもの『できた』『やれた』ことをわかりやすく褒める。

### 2. 園児の **2 集団行動力**を育む

- 少人数の集団から始め、集団行動への自信を育む。
- 子どもたちの様子をよく見て、変化に気づく。
- 活動や体験後に振り返りを行う。
- 集団遊びから子供同士でルールやマナーを覚えていく。
- 目的や活動内容を事前に明確にし、指導計画のもと余裕をもって保育を行っていく。
- 年齢の枠にとらわれず、色々な年齢の子供との交流を行う。

### 3. 園児の **3 思いやりの心**を育む

- 普段から子ども、職員同士で挨拶、お礼を思うだけでなく言葉で伝える。
- 色々な人、環境等に触れ合い接する機会を作る。
- 人や物を大切にすることを一緒に考える。
- 子どもの話に耳を傾け、よく話す。
- 思いやりの行動が見られた際は、わかりやすく褒めて伝える。

## チーム保育のポイント

- 園児の成長や変化等の情報を共有し保育士の『知らない』を減らす。
- 保護者との連携・情報共有を大切にし、信頼関係の構築をする。

- 子どもに対しての言葉使いや伝え方を丁寧にわかりやすくする。
- 子どもに過度なプレッシャーをかけず、安心して過ごせる場所を提供する。
- 保育士の役割を確立させ自分たちのやるべきことを認識する。
- 研修を通し保育士としての知識、技術を培い職員間で共有する。

### 具体的な取り組み

- 日誌や計画、記録を振り返り、職員間で情報の共有と再確認、計画の構築を行う。
- 役割分担を明確にし、業務や役割を整理し職員間で割り当てていく。
- 些細なことでも相談し、職場での早期問題解決に向けていく。
- カタグルマを活用し、職員間での情報共有、研修の振り返り、子どものこと等の情報等の共有を行っていく。
- 1on1 を定期的に行い職員の悩みや業務の効率化を図っていく。
- 謙譲語や丁寧語を使い、相手を不快にさせないように、マイナスの表現を減らしていく。

### 評価方法

- 園児の成長記録や保育日誌、カタグルマの個別日報、各種評価、を参考に、目標達成度を評価する。
- 保護者アンケートや意見交換を通して、保育の満足度を評価する。
- チーム全体で振り返りを行い、改善点を見つける。

以上、2026 年度の運営方針です。

健生保育園では、「**子どもの主体性を大切にし、遊びを通して成長を支える保育**」を目標に、子どもたちが笑顔で楽しく過ごせるよう、誠実に取り組んでいきたいと思います。